

交流セッション 連合会関係セッション

女性委員会セッション 和室の魅力を次世代に引き継ぐ

女性委員会は、2016年7月に平成28年度第26回全国女性建築士連絡協議会を奈良で開催した。テーマを「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」として、岐阜大学渡辺光雄名誉教授の基調講演、和室アンケート調査、パネルディスカッションが行われたことを報告した（詳しくは会誌2017年1月号と連合会ホームページ参照）。

次のパネルディスカッションでは、3名のパネラーに発表していただき、日本の暮らしのあり方について議論を深めた。はじめに、伝統的和室の考察として、茶室と職場と住居の併設の中で粋を楽しむ町家について、奈良の実例をもとに、茶道口の太鼓貼り襖や塗りまわし、風炉先窓や連子窓、台目構の床、大和天井や引手指物等の意匠や素材の空間が紹介された。続いて、富山の砺波平野に広がる散居村の地域性を活かした住まいの紹介。アズマダチは広い敷地に切妻屋根、東向きに妻入りで建つ。アズマダチの精神を継承しつ

つ現代の暮らしに合わせ工夫された建築事例が紹介された。

最後に、現代の住まいに和の要素を取り入れた設計事例の紹介。格子戸や障子、引戸の間仕切り、リビング続きの和室、小上がりの和室のフレキシブルな使われ方、床座の書斎等、現代のライフスタイルに和の空間を取り入れる可能性が示された。

意見交換では、「伝統的和室」や「次世代に引き継ぐ和室の魅力」などについて話し合い、豊かに暮らすことや愛着が次の世代につながる、和室の気持ちよさ、季節の使い方・暮らし方を取り入れたい、などの意見が交わされた。全国の女性会員からの和の空間事例も紹介された。

今後も建築士として和の魅力を伝えていく必要性を再認識したセッションであった。（小野金子／日本建築士会連合会 女性委員長）

日時…平成28年10月22日(土)
10:00～12:00

場所…別府国際コンベンションセンター
ビーコンプラザ 中会議室

参加者…55名

防災まちづくり部会 セッション

災害多発時代にどう向き合うか

災害発生時の復旧復興には平常時から地域との「普段付き合い」や「事前の備え」が必要である。セッション前半は、そのような取り組みの事例報告を行い、後半はさらに内容を深めるパネル討論が行われた。

事例報告では4名から発表があり、徳島県建築士会の矢部副会長からは、避難施設の応急危険度判定の協定締結や、普段使えてきた避難施設の提案、津波浸水により水没する地区の震災前過疎防止をめざした住宅地計画コンベンなどが報告された。

和歌山県建築士会の中西副会長からは、応急木造仮設住宅の設計検討を行い、規模18坪二戸一（施工費1,400万円前後）を提案したことや、応急木造仮設住宅の建設に関する協定締結などが報告された。

日本建築士会連合会の山中副会長からは、熊本県と応急仮設住宅の建設に関する協定を締結し、木造仮設建設に協力していることや、自立再建住宅展示事業へ協力し、規模20坪、販売価格960万円にてエントリーしたことなどが報告された。

熊本県建築士会の廣田常務理事からは、熊本地震の概要説明と、震災後の熊本県建築士会の活動として、応急危険度判定・被災歴史的建造物調査・住宅相談・罹災証明調査・応急仮設住宅への対応・くまもと型復旧住宅への取り組みなどが報告された。



写真1 女性委員会セッション



写真2 防災まちづくり部会セッション